

- 【日時】 2024 年 10 月 5 日（土） 13 : 30～15 : 30
【場所】 横須賀市 産業交流プラザ 第 1 研修室
【講師】 認定 NPO 法人エンパワメントかながわ CAP スペシャリスト
【参加者】 22 名

1. CAP（キャップ）とは

CAP（キャップ）とは Child Assault Prevention（子どもへの暴力防止）の頭文字をとった略称です。1978 年アメリカで誕生し、日本では、1995 年に CAP を実践する専門家である「CAP スペシャリスト」を養成する講座が開催されたことにより、本格的に提供が始まりました。子どもたちに「安心（あんしん）」「自信（じしん）」「自由（じゆう）」の権利があることを伝え、あらゆる暴力から自分で自分の身を守るために何ができるかについてロールプレイを交えながら考えていきます。

2. 実施内容

今回大人ワークショップで体験した CAP 講座は、小学校 3 年生くらいを対象にした講座でした。4 名の講師がロールプレイを交え、参加者を巻きこみながら講義を進めていきました。

参加者は名札をつけますが、名札には苗字ではなく、下の名前を記載します。そのことで「自分自身」を意識することにつながります。そして、少人数のグループで自己紹介をしました。その際、自分の名前の由来を話します。名前は、親からもらう最初のプレゼントですが、そこには親の願いが込められていて、「大切なあなた」という思いがこもっています。それを話すことで、「大切な自分自身」を意識します。

自分が大切な存在だということ意識することで、人権意識を育てることにつながります。

そして、実際にいじめや性的な接触についてのロールプレイを講師が演じるのを見てから、その都度少人数のグループで感じたこと、どうすればよいと思うか、などを話し合います。その中で、誰もが持っている大切な権利「安心」「自信」「自由」（動作、ジェスチャーを交えながら説明）を奪われそうになったら、以下のことを実践できるように促します。

「NO」＝「いや」と言ってい。一人で言えない時は友だちに一緒に行ってもらえることできる。

「GO」＝逃げてもいい。具体的にどのように逃げるか、特別な叫び声などを提示する。

「TELL」＝相談しよう。話を信じて助けてくれる大人に出会うまで、あきらめずに話す。

今回は、大人ワークショップだったので、地域や学校、家庭の大人として何ができるのかもグループで話し合いました。

具体的な事例を取り入れながらの2時間は、あっという間でした。

3. 参加者の感想

- ・「安心」「自信」「自由」がひとつでも脅かされると暴力であるというのは、とてもわかりやすく本質的で理解しやすかったです。印象に残ったのは、誰かに助けを求めるのはつけ口ではなく「相談」だということでした。それを子どもたちに伝え続けることも、今日からできる小さな行動だと感じました。
- ・来年小学校で実施するときには、小学生の今後を見据えて、LINEなどのSNSでのつながりと学校内でのリアルな関係との狭間で起こるいじめの寸劇があるといい気がしました。
- ・自分の考えをはっきり言える事が大切だと感じました。それには小さいうちから、今回のような教育をした方が良くと思いました。
- ・大人が知っていないと子どもからの発信に気づけない。大人ワークショップ大事ですね。
- ・「安全」「自信」「自由」の権利について子どもたち向けで分かりやすかった。SOSの発信がうまくできるようにしないといけないですね。
- ・この講座を、横須賀市全ての教職員が受講してほしい。子どもが学んでも、受け皿となる教職員が受け止められなければ意味がない。
- ・教育現場での教職員の言葉に、子どもたちは救われたり傷つけられたりする。教職員に子どもの権利について学んでほしい。
- ・20年以上前に受講したことがあったが、内容も更新されていて分かり易くよかった。昔はCAPの認知度が低かったが、これからCAP講座を子供達みんなに受けられるのはとてもいいと思う。

